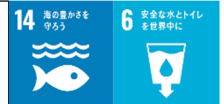


現代と過去の水銀のとらえられ方

2年生
2名



仮説

「環境首都水俣」に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信

日本では大きな水銀被害が起き、水銀との向き合い方が変化しているが、世界でも同じようなことが起きたのではないか。

検証方法

水銀問題や世界で起きた公害をテーマにしてインターネットや本などで調べる。

検証結果

中国	フィンランド	カナダ
<p>○松花江水銀汚染 →松花江という約200kmの大河でアセトアルデヒドが発見</p> <p>○貴州省水晶有機化工集団 →工場排水による汚染 環境省などによる水銀測定</p>	<p>○パルプ（紙などの主原料）などの消毒に水銀が使われた。 →有機水銀の消毒薬は禁止になったものの、発病者が出た。</p> <p>○汚染経路は水俣病と同様に魚で、水俣病の資料を元に調査された。</p>	<p>○インディアン居留地で水銀汚染事件が発生 →汚染源がアセトアルデヒド工場ではなく苛性ソーダ工場であり、自然界において無機水銀がメチル化する問題がある →人口密度が極めて低く、僻地で交通の便が悪く孤立化した地区で、被害民は自然に強く依存した生活を強いられている被差別民で魚や獣や野生のコメや果物が主食であることだった。</p>
<p>□環境に関する法律</p> <p>○環境保護法</p> <p>○水質（大気）汚染防止法</p> <p>○クリーン生産促進 など</p>		

